

29 兵庫 神戸 13版 △ 2013年(平成25年)12月11日

ハニゼン病 苦しみ今も

国によるハンセン病の隔離政策の実態に、元患者らの証言を追った記録映画「もういいかい〜ハンセン病と三つの法律」が14日から、神戸市中央区元町通4丁目の元町映画館で公開される。監督の高橋一郎・宝塚大学准教授(60)らスタッフの多くが京阪神在住。映画は昨年完成したが、関西での劇場公開は初めて。初日は高橋監督が舞台あいさつする。

14日から 元町映画館

日本では1907年に法律「癩(れい)予防法」ができて以来、2度の改定を経て「らい予防法」が96年に廃止されるまで、患者を療養所に入所させる隔離政策が約90年間続いた。

映画では約20人の元患者がインタビューに答じた。証言によると、入所すると「改名」を迫られ、仲間の看護から納骨堂の清掃まで、あらゆる活動を患者が担った。子どもが生まれないように断種や墮胎まで行われていたという。

元患者らは法律廃止後の98年から次々と国家賠償請求訴訟を起し、勝訴した。しかし、すでに家族を失った元患者の多くは、高齢化した今も療養所で暮らす。題名の「もういいかい」は、死んでも遺骨が故郷に帰れない実態を元患者がうたった「もういいかい 骨になってもまあだだよ」からとった。

スタッフは神戸市に住む高橋監督

元患者の記録 劇場公開

や、西宮市在住の鶴久森典妙(のりみよ)プロデューサーら数人。これまでも処理が困難な放射性廃棄物の行方を追った「24000年の方舟」など骨太の記録映画をつくってきた。「今作は自分たちの代表作にどの意気込みで取り組んだ」と鶴久森さんは言う。

2007年から取りかかったが、完成まで5年かかった。東京では劇場公開したが、関西ではこれまで公民館などでの自主上映だけだった。高橋監督は「誤った法律が一度でも成立すると官僚組織がいつまでも守る。その結果を知ってほしい。そして、同様の事態が『特定秘密保護法』などでも繰り返されかねないことを考えてみて」と話す。

20日まで毎日午前10時から、2時間23分。当日一般1700円、学生・シニア千円。問い合わせは、「もういいかい」映画製作委員会(07-8-33333・86690)。



「もういいかい〜ハンセン病と三つの法律」について語る高橋一郎監督＝神戸市須磨区